

未来へ翔く 職業会計人(税理士・公認会計士)のオピニオン・マガジン

# TKC

発行日 平成15年4月1日  
発行所 TKC全国会  
〒162-8585 東京都新宿区神楽坂2-1 軽子屋MNビル5F  
Phone : (03) 3266-9222#0  
http://www.tkonf.or.jp/

**4** No.363  
平成15年  
2003

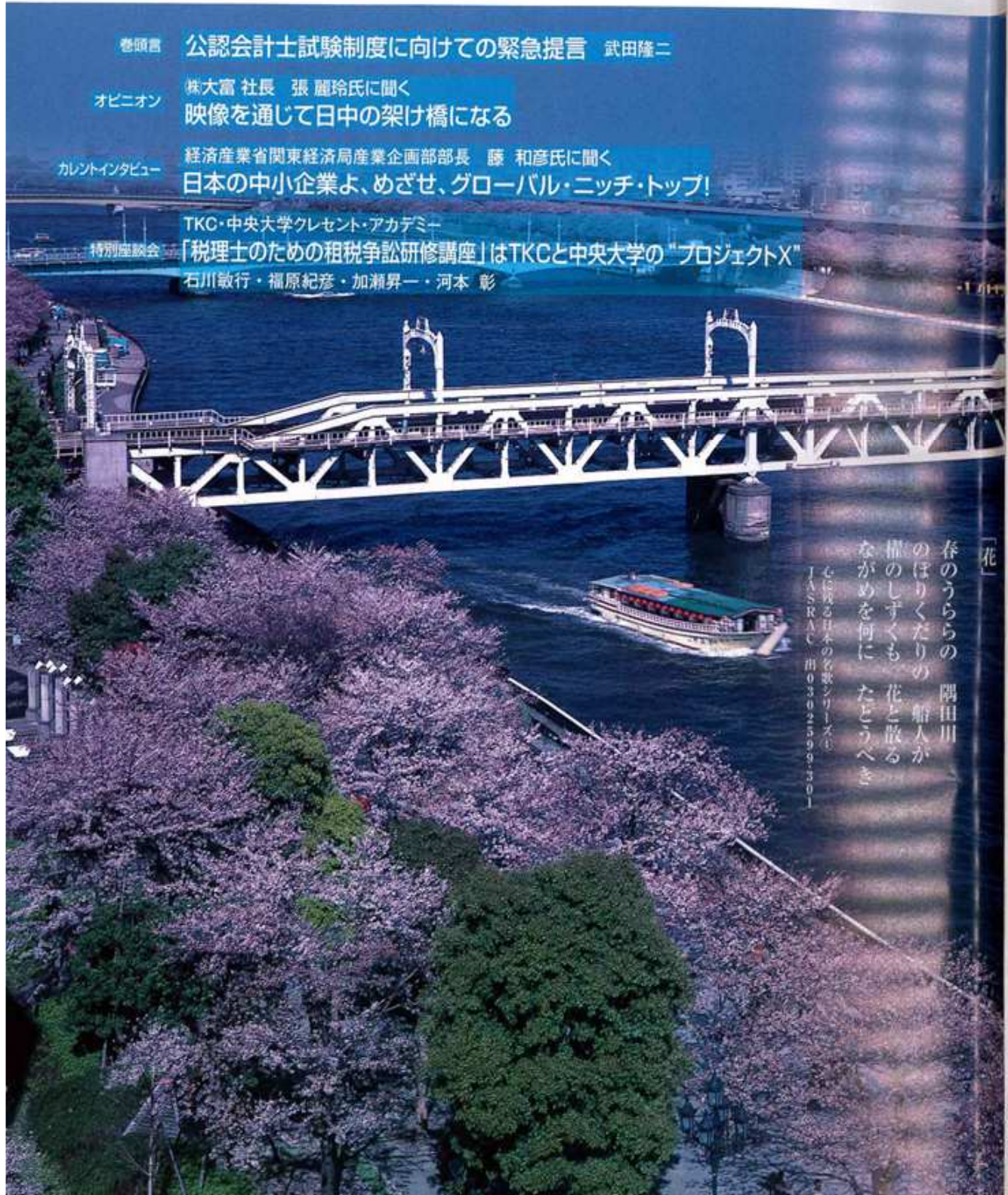
TKC No.363 2003年4月号

巻頭言 公認会計士試験制度に向けての緊急提言 武田隆二

オピニオン 株大富 社長 張 麗玲氏に聞く  
映像を通じて日中の架け橋になる

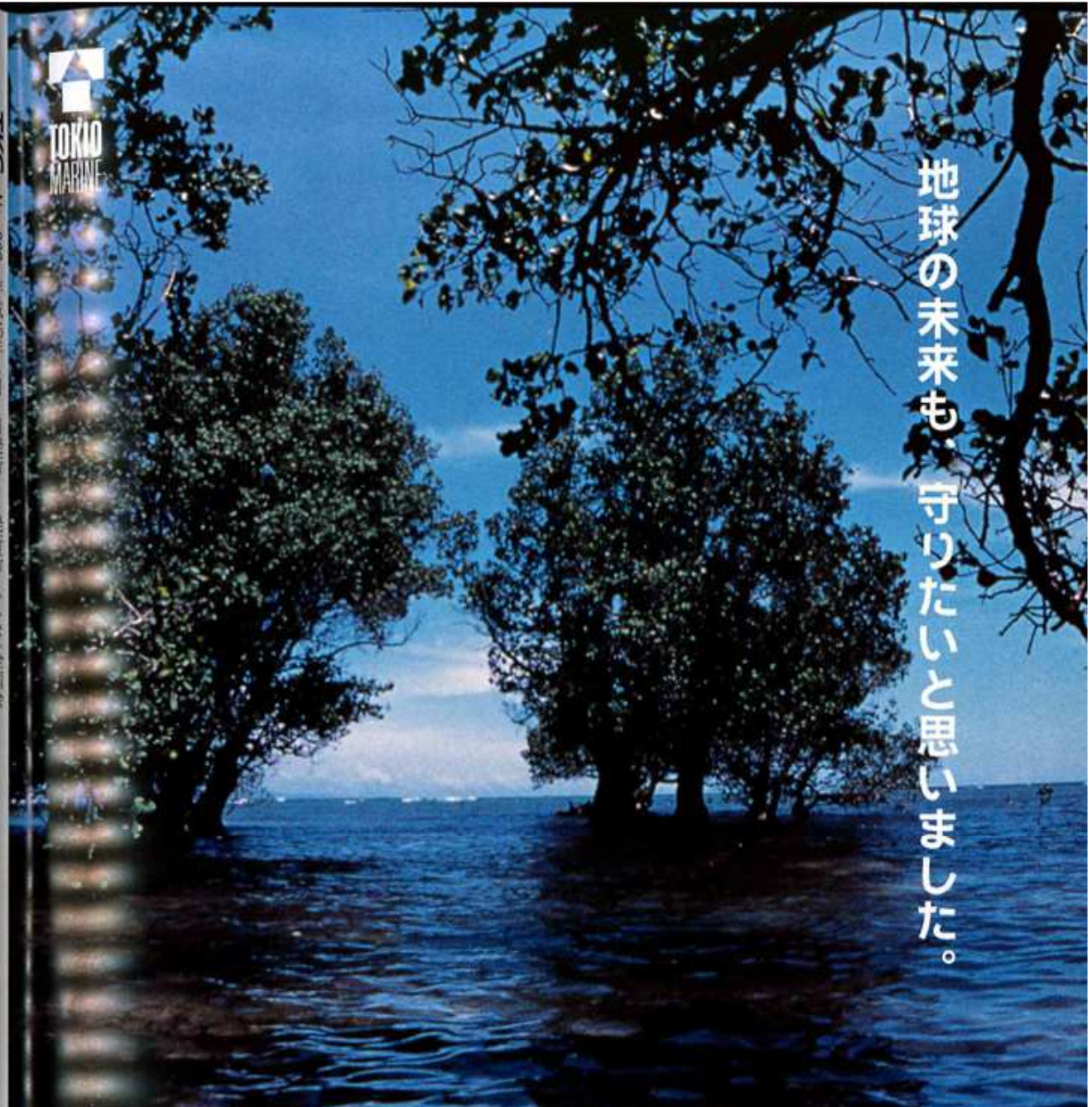
カレントインタビュー 経済産業省関東経済局産業企画部部長 藤 和彦氏に聞く  
日本の中小企業よ、めざせ、グローバル・ニッチ・トップ!

TKC・中央大学クレセント・アカデミー  
特別座談会 「税理士のための租税争訟研修講座」はTKCと中央大学の「プロジェクトX」  
石川敏行・福原紀彦・加瀬昇一・河本 彰



花  
春のうららの 隅田川  
のほりくたりの 船人が  
櫂のしずくも 花と散る  
ながめを何に たどうべき  
心に残る日本の名歌シリーズ  
JASRAC 0302599301

地球の未来も 守りたいと思えました。



そこで、私たち東京海上は、  
海の森づくりに  
取り組んでいます。

毎日の生活には保険をかけることができます。けれども、地球の将来には保険をかけることができません。そこで私たちは、「海の森」をつくらうと考えました。それは、熱帯・亜熱帯の沿岸地帯を覆い、CO2の吸収に優れたマングロープ林を、かつての規模まで再生しようということ。一度失われた自然を取り戻すことは簡単ではないけれど、私たち東京海上は、この星に暮らす一企業市民として、地球の豊かな未来を、見守り続けていきたいと思っています。

No.1の約束、  
東京海上。

安心、ひろげます。  
東京海上

東京海上火災保険株式会社 東京都千代田区丸の内1-2-1 100-8050  
お問い合わせ先:お客様相談センター TEL (03) 3212-6211 (代表) ホームページアドレス http://www.tokiomarine.co.jp/

TKC全国会



巻頭言	4	武田隆二
提言	1	薄井信明
オピニオン	24	張麗玲氏に聞く 「墮落型」からスタートして十五年
カレントインタビュー	40	映像を通じて日中の架け橋になる 経済産業省関東経済産業局 産業企画部部長 藤和彦氏に聞く
政経研活動	16	日本の中小企業よ、めざせ、グローバル・ニッチ・トップ! 太田誠一 自民党行政改革推進本部長との懇談 職業会計人統一試験制度の創設を 高市早苗 経済産業副大臣との懇談 セーフティネット対策で中小企業に活力を 民主党企業税務会計監査研究会が開かれる 「土業」の使命と責任を真に踏まえた改革を!
特別座談会	60	不安を感じた税理士への転身も充実したサポートで軌道に乗る 税務当局出身会員が語る 原田哲・三浦利彦・三浦恒雄/刈谷敏久
編集者レポート	44	TKC・中央大学クレセント・アカデミー 「税理士のための租税争訟研修講座」は TKCと中央大学のプロジェクトX!! 石川敏行・福原紀彦・加瀬昇一・河本 彰
ITC活動インタビュー	48	近畿兵庫会の経営革新支援への取り組み——支援機関との「経営革新実践講座」の事例 IT導入支援の専門家 ITCは経営革新支援の人的切り札 松本憲二
経営革新ユース	50	企画の勝利! 札幌開催が五百余名を集める 全国各地の「TKC経営革新セミナー」開催レポート
全国イベント	84	倒産防止共済制度講師研修が開催される 第七十回TKC全国人会入会セミナーが開催される 地域会(支部)の交流会開催レポート
金融機関との交流会ユース	88	「ユース&ボイス」
私を語る	66	心身ともに現役です 高比良昌一 共同事務所所長 桐谷・源川税理士事務所
モデル事務所登場	72	桐谷・源川が社長さんの萬相談に応じます 「ASPB000」活用事例
TKCシステム	78	安心感を与える相続税業務が専門家の務め 税理士瀬戸口有雄事務所 TKC会計人への期待が高まる今こそTKCシステムをフル活用しよう!
システム普及部会から	80	「TKC経営革新セミナー」で多くの経営者が経営革新の具体策を学ぶ
TKCパブリシイター	82	提携・関連機関
TKA会員相談室	92	利益処分案の作成上の留意事項について 渡辺伸啓
企業防衛制度ユース	94	関与先完全防衛の実現に向けた「企業防衛行動指針」の徹底 森山昌彦
リスクマネジメントユース	96	平成十五年度TKC・P.L保険の募集について 三澤栄二
TKCユース	98	倒産防止共済制度の取扱いがいよいよスタート 青野祥一
議事録	102	◆ 102 窓 ◆ 122 読者の広場 ◆ 123 インフォメーション ◆ 124 編集後記 ◆ 128

# 公認会計士試験制度に向けての緊急提言

武田隆二

## 映像を通じて日中の架け橋になる

張麗玲氏に聞く



張麗玲氏

「墮落型」からスタートして十五年 薄井信明

日本の中小企業よ、めざせ、グローバル・ニッチ・トップ!

職業会計人統一試験制度の創設を

セーフティネット対策で中小企業に活力を

民主党企業税務会計監査研究会が開かれる

「土業」の使命と責任を真に踏まえた改革を!



藤和彦氏

不安を感じた税理士への転身も充実したサポートで軌道に乗る

### 全国会NOW

近畿兵庫会の経営革新支援への取り組み——支援機関との「経営革新実践講座」の事例

IT導入支援の専門家 ITCは経営革新支援の人的切り札 松本憲二

企画の勝利! 札幌開催が五百余名を集める

全国各地の「TKC経営革新セミナー」開催レポート

倒産防止共済制度講師研修が開催される

第七十回TKC全国人会入会セミナーが開催される

地域会(支部)の交流会開催レポート

### ユース&ボイス

心身ともに現役です 高比良昌一

共同事務所所長 桐谷・源川税理士事務所

桐谷・源川が社長さんの萬相談に応じます

「ASPB000」活用事例

安心感を与える相続税業務が専門家の務め 税理士瀬戸口有雄事務所

TKC会計人への期待が高まる今こそTKCシステムをフル活用しよう!

### 提携・関連機関

利益処分案の作成上の留意事項について 渡辺伸啓

関与先完全防衛の実現に向けた「企業防衛行動指針」の徹底 森山昌彦

平成十五年度TKC・P.L保険の募集について 三澤栄二

倒産防止共済制度の取扱いがいよいよスタート 青野祥一

### TKC会計人の行動基準書

1. TKC全国会は、税理士業務に併せて会計業務を実施する会員の遵守すべき規範として「巡回監査」と名づける業務の実践基準を制定する。この基準は、税理士法上の相当注意義務を履行した証左として、会員が必ず実施しなければならない業務手続を付子とする。

2. 会員は「巡回監査」の誠実な実施により税理士の責任を果たしたことを書面添付制度によって明示し、税理士に対する社会の期待と信頼に答えなければならない。

編集長 寺田明男  
副編集長 加藤佳理夫  
編集室 石野 清  
古市 学  
丸屋雄二郎  
豊田弘行  
程田勇弘  
清水公一朗  
取材協力 高田順三(全国会事務局)  
内藤寛仁(京都府会)  
井戸下和彦(福岡支会)  
写真撮影 熊木富男  
唐川敬司  
デザイン 梶本工房  
吉田隆生  
原島広樹  
大場康博

表紙/心に燃える日本の多感シリーズ⑥  
花  
武島羽衣・作曲  
滝澤太郎・作曲  
春のうららの 隅田川  
のぼりくも 船人が  
標のしずくも 花と散る  
ながめを何に たとうべき  
見ずやあけほの 露あびて  
われにもけい 桜木を  
見ずや夕ぐれ 手をのべて  
われさしまねく 青柳を  
飾りなす 長堤に  
暮るればのぼる おほろ月  
ながめを何に たとうべき  
JASSRA 出 03035599・3301  
(表紙写真/東京都・隅田川)



## 視野を広げるために 女優業を捨て日本へ

——最近あまりインタビューにお応えにならないところを今日は特別にお引き受けいただいたそうでたいへん感謝をしています。  
日本で生きる中国人留学生たちの記録「小さな留学生」「若者たち」「私の太陽」とフジテレビが張さんの活動を追った「中国からの贈りもの」のビデオ計四本、インターネット

オピニオン No.74

——(株)大富 代表取締役社長 張麗玲氏に聞く インタビュアー 本誌編集長 寺田昭男

# 映像を通じて 日中の架け橋となる

中国と日本でテレビ放送されたドキュメンタリーシリーズ「私たちの留学生生活」日本での日々「http://www.fujitv.co.jp/ryugakusei/」は、視聴者に努力の意義を伝え、夢と勇気と大きな感動を与えた。その撮影・編集にあたったのは、自らも日本での留学経験を持ち、現在、スカイパーフェクトTVで「CCTV大富」と「TVB大富」という二つの中国語チャンネルを持つ会社の社長、張麗玲氏である。今回、雑誌等への登場は約一年ぶりという氏に、留学生のドキュメンタリーを始めた動機やテレビ化の経緯、今後の展開などを聞いた。



張麗玲●ちよう・れいれい  
1967年9月中華人民共和国・浙江省生まれ。女優として北京で活躍後、89年来日し、東京学芸大学及び同大学院を卒業。95年大倉商事入社。同年12月フジテレビの横山隆晴プロデューサーと出会い、かねてからの希望だった「中国人留学生のドキュメンタリー」制作を開始。98年中国での女優時代の人脈を通じてオファーを受け、スカイパーフェクトTVで中国中央電視台(CCTV)の番組を24時間放送する(株)大富の社長に就任。社長業の傍らドキュメンタリー制作・編集を続け、99年末の中国での放送にこぎつけた。「大富」の「大」は最初の勤務先で大富の筆頭株主であった大倉商事(98年8月倒産)。「富」はフジテレビから命名した。

Photo: 藤川敬司

はできないかと思っていたようです。ただ、親にとっては安全が第一で、すぐに帰ってこられるような所にしてほしいと言われました。  
——それで、アメリカでなく日本ですか。  
張 別にアメリカが好きということではなくて、友達がほとんど行っているのでも私もうしようと思っただけです。  
親は、いろいろな人から「日本は安全だ」と聞いて、また近いのが魅力でした。それと、私が知り合いもないし、言葉も全くできないので、日本だと行かないと言いつつだろーうと思っただけです。

で検索した四百頁に及ぶ資料、フジテレビが公開している視聴者からの五百通の熱いメール全部に目を通しました。メールの中身同様、私も留学生の生き方や張さんの制作・編集にかける意気込みに感動しました。

張 ありがとうございます。  
——中国・浙江省杭州市で生まれた張さんは十七歳で北京に出て、まずは女優としてスタートされたのですか。

張 幼少の頃、いちばん最初に映画を見た

——そんな中で一九八九年に来日し、東京学芸大学に入学された経緯は？

張 日本語学校で一年間勉強して、学芸大学を受験しました。実は早稲田とかほかの大学もいくつか受けてみたのですが、最初に学芸大学から合格通知が来たので決めました。

——留学生生活は大変な苦労があると思いますが、張さんの場合はいかがでしたか。

張 中国にいたときには、ある意味で自分なりの世界をすてにつくっていたのですが、日本ではいきなりそれらすべてを捨てて、社

ときすごく感動し、人間が演じているとは知らなくて、姉に「画面の人は、みんな人間ですか。本物の人間ですか」と聞いたのです(笑)。すると「そうですよ」と言われて、将来大きくなったら、人に感動を与えられる仕事にしたいと思いました。

女優を選んだのは、華やかだとか、有名になりたいということではなくて、十七歳の時に偶然にもスカウトされたのと、直接感動を与えられる素敵な仕事だと思ったからです。

——女優として将来を囑望されながら、二十一歳のとき日本に留学を決めた理由は？

張 中国の女優は日本の芸能界とはちよつと違って芸術家のような感じで見られ、仕事も多いしすごく良い仕事でした。ただ中国の改革開放が進み、有能な人や時代の先端を走っている人たちが一気に外国に出るようになって、女優にしろ、監督にしろ、もっと視野を広げないと時代遅れになると思いました。最初はアメリカ行きを決心しました。

——両親はそれを受け入れてくださったのですか。

張 両親は文化大革命の経験から、万が一、また何かあったら戻ってこれないのではないかと心配し、外国に行くこと自体、すごく心配したようです。でも、一度決めたら人の言うことを全然聞かないという私の性格を親はよく知っていますから、行くのを止めること

会的地位も全くないし、言葉もできないので、金縛りのような状態になってしまいました。

——ストレスによって体調を壊すようなことはなかったのですか。

張 がんがんで痩せて体重が三十七キロまで落ちました。一緒に撮影をした張煥琦という人も一時相当痩せました。来日一年くらいのとき、精神的なことでも皆痩せます。自分の選択が正しかったかどうかですごく悩むのです。

——日本人は、張さんに対して親切、それとも不親切でしたか。

張 男性に対してよりは親切かもしれませんが、私は敏感な人間なので……。差別されたような気持ちになって、すごく怒ったりしました。先生とも喧嘩したり、鉛筆を黒板に投げたり、私はすごく性格が悪いのです。

たまにタクシーに乗ると、運転手さんから「中国人？」「お金いっぱい稼いだ？」と聞かれます。昔だったらすごく怒って、すぐに降りましたが、今は図々しくなって、逆に「じゃあ、運転手さんはいっぱい稼いでますか？」と質問します。すると「稼いでいたら、こんなに深夜まで仕事しないよ」と言うから、「日本人でもそれほど大変なら、外国人が日本で、どうやってお金を稼ぐの？ 日本が好きじゃなかったらいいわ」と答えると、「そういうええばさうだね」それは考えたことなかった」という返事がかえってきます。



## 勤務先の理解と応援で 留学生の実生活を撮影

——一九九五年に東京学芸大学の大学院を卒業後、大倉商事を選ばれましたね。

張 はつきり言いますと、日本に六年いても、あまり好きになれませんでした。というのも、本当の日本を知らなかったし、すごく素敵な人にもあまり出会わなかったからです。だから最初は、日本を垣間見て帰るつもりでしたが、長ければ長くなるほど、日本人が中国人を理解していないことに遭遇し、自分も日本を好きになれないことを情けないとすごく焦り、少なくとも好きになってから帰国しようと思うようになりました。

会社を選ぶ際は、日本の文化や伝統芸能を感じられるところがいいなと思いました。ただ、私は外国人ですから、そういうところは、やりにくいかもしれないので、総合商社を希望しました。それで、いちばん伝統があるのは大倉商事だと聞いて、大倉商事一筋、不合格だったら帰国もやむを得ないと思いました。入社して、まだ仕事に慣れないうちに、中国からの留学生を記録しておこうと思った理由は？

張 私が日本に来たのは二十一歳でしたが、あの頃の留学生の多くは三十代でした。米や野菜、鍋などが入った大きな荷物を八つも九

つも抱え、それぞれの夢や目的のために仕事

や社会的地位を捨て、家族を置いて、言葉も全く通じない、お金もない中で、人生をゼロから再スタートさせようとしている人たちの姿を成田空港の到着ロビーで見て、改めて人間に感動し、勇気をもらいました。それで、もしビデオカメラがあれば、そのままその人たちを追いかけたいと思ったわけです。

その後、留学生たちが成田へ着いた瞬間からのことを一度文章にして、四万字くらい書いたのですが、なかなか上手く表現できなくて。そのうち現実のできごとに感動し、惹きつけられ、やはり映像しかないと思いました。そして、来日から六年経ち、大倉商事に就職して、慣れ落ち着いた段階で、このまま夢が潰れるのかなと思っていました。たまたま新しい留学生に出会いました。その留学生は若くてお金持ちで、手荷物しか持っていないで、「足りないものは日本で買えばいい」と言ったのです。中国の変化に本当に驚き、今撮影を開始しないと、自分が成田で見た、あの光景が風化してしまうと焦ったわけです。

——それでアポなしで「カメラを貸してください」と。なぜフジテレビだったのですか？  
張 この企画にはカメラが必要で、日本は電機大国で、テレビ局には古いカメラがいっぱい余っているはずと勝手に思って(笑)、日大の芸術学部出身の友人など、いろいろな

人に企画書を出して聞いてもらったところ、「そんなこと実現できるわけがない」「NHKだと六億円ぐらいかかると言っている」と、ほとんど相手にされませんでした。

ただ、知人の知人から「フジテレビのプロデューサーだと、感動的な内容であれば、話を聞いてくれるかもしれない」と言われたのです。そのとき私は、フジテレビを富士フイルムの子会社と勝手に解釈していました(笑)。

——フジテレビの横山隆晴プロデューサーは、張さんの話を聞くとその場でカメラを回し始めたそうですが、いい勘でしたか？  
張 横山さんはドキュメンタリーの天才で、非常に勘の鋭い人です。何よりも、こういう人がいるというだけで、私の日本人親はすべてひっくり返り、人と人とのつき合いがいかに大切かを教えられました。

——撮影や編集と、日本人のボランティアが随分協力してくれたようですが？  
張 私はすごく幸せです。カメラの遠藤一弘さん、音響の田中政文さん、フジテレビの横山さんをはじめ、みんな好人ばかりです。——平日は勤務後、休日はフル稼働。インタビューしたのが三百十五人、撮影テープが千本。途中倒れながらもよく頑張りましたね。  
張 フジテレビを最初に訪ねたとき「時間はどの程度かけますか」と聞かれ、「一年」と答えました。会社の仕事を縫っての撮

## 番組が中国全土で放映 対日感情に大きな変化

——日本で制作したデモテープを持って、中国のテレビ局をすべて回ったそうですが。

張 最初に北京電視台が放送してくれることになり、当初二十回シリーズの予定を断念して、一話一時間の十回シリーズに変更し、中国で制作しました。

ただ、放送前の宣伝はありませんでした。八〇年代、九〇年代の前半は、留学生のドラマや文学作品などいろいろな番組があって、留学生に対する興味が高かったものの、九〇

年代の後半になると、中国がガンガン発展したので、皆関心が薄くなっていったのです。

そして、日本のゴールデンタイムは夜の九時台ですが、中国は七時や七時半開始です。でも、この番組は、九時三十五分開始で、メインチャンネルではないし、観る人は稀だろうと思っていました。

ところが、予想に反して三日目ぐらいから、北京が大騒ぎになりました。中国の朝刊紙「晨报」が文化欄に記事を載せたら、「もっと記事にしてください。新聞社の責任でしよう」「制作者に会いたい。討論会や座談会を用意してください」と視聴者からの電話やファックスが殺到し、回線がパンクするほどでした。今の中国では、報道や記者会見にお金がかかるのですが、私たちの場合は逆に、マスメディアが全部セットしてくれました。

そして、どの会社でも必ず話題になっていて、前の晩、見ている人は「どうして見ないの、何見るの？」と言われていたらいいのです。私の姉は、地下鉄やバスの中でも番組の話を聞いたと言っていました。

——大変な社会現象になったのですか？  
張 北京電視台が終わったら、上海電視台等、次々と中国全土で放送されました。

——張さんが電波ジャックしてしまっただ、中国と日本を(笑)。  
張 留学生の様子が中国全土に流れたら、

同胞の異国での頑張りと「こんなに良い日本人がいるなんて知らなかった」との両面で、すごい反響です。私は講演会やサイン会等で、主要な大学を始め、南京にも二回行ったのですが、「張さんが撮っている日本人で本当の日本人？」と皆に聞かれました。

そして、いろいろな出版社から出版依頼などが来て、受けるかどうか迷っていたのですが、最終的に、日本の朝日新聞に相当する「光明日報」のインタビュで本を出しました。

——「人民日報」にも何度か載りましたね。  
張 中国共産党の機関誌である「人民日報」は識者の評価が高く権威がありますが、一般人はあまり読みません。でも今回、その両紙から評価をいただくことになりました。

——政治家としても見逃せない番組だったでしょうね。  
張 朱鎔基首相(当時)からも、訪日中の記者会見で「それを観た。感動した」と言っていたくれましたから。

——日本でも「小さな留学生」「若者たち」「私の太陽」の三本が放送されました。  
張 中国で放送してもらったことしか考えていませんでした。こういう留学生の地味な番組は、視聴率第一の日本のテレビ局では無理と、最初から諦めていましたし、日本のテレビ局は、中国人の犯罪以外、中国人には興味がないだろうと思っていましたから(笑)。



## 第二世代の留学生を 日本が温かく迎える

——「小さな留学生」の主人公は、小学生の張素ちゃん。題材が良かったですね。

張 私たち、留学した第一世代の間は、自分が選んだ道だから、夢を追いかけたいために一所懸命努力したり、苦労するのは当たり前だと思っていますが、「小さな留学生」のような第二世代の子供たちは、親の都合で日本の学校に通ったりと、自らの意思ではないのです。それをすごく考えさせられて、第二世代のことも撮ってみたいと思ったとき、スタッフの親戚の子供が来日すると聞いて、交渉したわけです。

——「小さな留学生」は視聴率二〇・六％ですから、日本人も、素晴らしい作品を客観的に評価する能力は持っていますよ（笑）。

張 放送後、フジテレビは三十分間、電話やファックスが鳴りやまなかったそうです。

——張素ちゃんは頑張り屋さんですね。

張 日本語が全くわからなかったのに、二年間で成績が一番になりました。中国に帰っても、ずっとトップです。すごくおとなしい子ですが、芯がしっかりしているのです。また今度、日本へ留学で来ると思います。そして、将来、外交官になって、日中友好の架け橋になりたいという夢を持っています。

——八王子市立第七小学校の撮影では、校長先生等がよく了解してくれたと思います。

張 最初は、張素ちゃんのお父さんを通じてお願いしました。普通、日本で許可を得るのはなかなか難しいですね。もし私たちがテレビ局の間だったら、許可してもらえなかったと思います。担任の中村直子先生も、中国人が親戚の子供を撮っているぐらいの感覚で、まさかそれがテレビで放送されるとは思っていませんでした。

——そして、中村先生ご夫妻は夏休みを利用して張素ちゃんの通う中国の小学校を訪ねましたね。

張 中国のドキュメンタリー界の、ある大御所が「小さな留学生」を見て、中村先生のことを知って、「六十年間の日本人に対する偏見が初めて解けた」とテレビでおっしゃっていて、すごく嬉しかったですね。その方は、日中戦争の時、日本軍の爆弾の破片が頭



に飛んできて、一命は取り留めたものの、当分傷が治らなかつた苦い経験をお持ちなのです。

これまで中国と日本の関係は、たくさんの方が、「無理、無理」とずっと言ってきたけれども、両者が仲良くなれることを裏付けることができただけであれば嬉しいことです。

——外務大臣以上の功績ですね（笑）。日本の外務省は、これにどう反応をされましたか。

張 北京にある日本大使館に呼ばれて、当時の大使の方と一度会食をしました。

——校長先生も素晴らしい方でした。

張 張素ちゃんの通う小学校に楽器を贈るなど特な計らいをされました。日本人にお世話になったことがある人は、皆、あの優しい校長先生を見ると、涙ポロポロですね。

——八王子の小学校が伝統校で、しかも中村先生、あの校長先生と最適の環境でしたね。

張 そうなんです。だから講演会では、来日経験のある人がすごく反発するんです。「自分の時はそんないい人はいなかった」と。

——素晴らしい人との出会いは、天性や運のほかに、努力も必要でしょうか？

張 私の場合、最近はいいい人ばかりに出会って、運が良いです。皆から「なぜそんなに続けられるのですか」と聞かれますが、活動を支えてくださる協力者がいるから、やめられるわけじゃないですね。

## 親元を離れないと 子供は成長しない

——ドキュメンタリーを撮り始めたのは「若者たち」からですか。

張 中国人が最初に日本の土を踏む成田へ行って、王尔敏さんと韓松さんから撮り始めました。日本での放送は「小さな留学生」が最初ですが、中国では九番目でした。中国で最初の放送は王さんと韓さんの物語です。

——「若者たち」は主人公を男女二人の組み合わせですが、意図的に……。

張 いろいろな人を撮って、何年追いかけてもほとんど変わらないような人がいた中で、変化がすごく大きかった二人を、最終的に主役にしたわけです。

——王さんのご両親は、親元では成長しな

いと言って、十九歳の娘にパスポートを渡し、留学手続きをして送り出しているのですね。

張 中国人の親はだいたいそうします。今の留学生はもつと若く、十六歳ぐらいでイギリスやアメリカにたくさん出ています。

——親は子供に何を望んで、そのような手続きまでするのですか。

張 自立と社会に役立つ人になってほしいという気持ちです。今、中国は一人っ子政策で一人っ子が多く、家にいる子供は「小皇帝」です。おじいさん、おばあさんよりも、家では孫のほうがずっと偉いのです。でも社会に出て行くと、普通の人になるのですから、親元から離れないと成長しません。本当に子供のためを考えている親は、心を鬼にして外国へ行かせるのです。でも、途中から心が痛くなって、子供について行く親もたくさんいるのですが（笑）。王さんのご両親は、家で夫婦二人で抱き合っていて泣いても、絶対心を鬼にして我慢していらしいのです。

——王さんは、綾瀬のおばさんの家を出て、アルバイトで自活して千葉大学を目指しながら「苦勞しなくてはいけない。恨み言は言わない」と言った、あのセリフはいいですね。

張 つい最近、大富に遊びに来ました。千葉大を卒業してアメリカ系企業の日本人で頑張っていて、今は立派な社会人です。

——韓さんの留学生生活は、とてもドラマチ

ックですね。

張 彼の父親は県知事、母親は市長ですからともに共産党の大幹部という恵まれた環境で、奥さんも子供もいながら日本へ来ました。先進国家で暮らして視野を広げ、いろいろな知識を身につけたり技術を勉強し、中国に戻って、幹部になるつもりでした。しかし彼も今は、日本の企業に就職して頑張っています。

——当初、日本に来て電車のガタガタという騒音が聞こえる四畳半のアパートに住んで、あまりの環境の違いに泣き笑いをしていました。あのシーンは自然に？

張 彼は、私たちがプロの制作者ではないし、同じ留学生、同胞ということで安心したのでしょう。でも、自分が考えていたことと現実とのギャップがあまりにも大きすぎて、すごく落ち込んで、ストレスを解消するために話していたのだと思います。

——仲間が来て聞いてくれると……。

張 そうですね。横山さんから「ドキュメンタリーを撮るのは、非常に苦しいことですよ」と言われたことがあるのですが、最初はそれが全然理解できなくて、「何が苦しいのですか？」と聞き返したことがあります。

途中から、横山さんの発言がすごくよくわかりました。苦しいとは、「心」が苦しいのです。皆が、徹底的に信頼してくれると、何でも話してくれるのです。そうするとこちらと



しては、いつかはテレビに出すので、その人に対しての責任をものすごく感じるわけです。今まだたくさんの方の記録が残っていて、テレビ番組のための編集はしていないのですが、もっと本音を出している人は結構います。

——韓さんは、十時間食事もとらずに皿洗いのアルバイトをして、手帳を見ながら日本語を一万語、丸暗記をする努力を続けました。張 その結果、希望通り明治大学商学部に入學しましたが、よく頑張ったと思います。

——最後に、彼の「国にいた以前の自分を思うと恥ずかしい」というナレーションが入りましたが、あれは？

張 「恥ずかしい」と言ったから、私は「何が恥ずかしいのですか？」と尋ねました。すると、「人間として原点に戻り、素直になった。どう生きていけばいいのかわかったような気がする」と答えてくれました。

### 一日パン二個の生活に耐え 千葉大学初の経済学博士へ

——「私の太陽」は、日本では新しく二〇〇一年四月二十七日に放送されたのです。

張 主人公の李仲生さんは、十六歳のときに文化大革命で内モンゴルに下放され、高等教育を受けることができなくて、独学で必死に勉強して試験の成績が良かったにもかかわらず

——後半で、李さんがカンツォーネを歌いますね。「オー・ソレ・ミオ」の曲が流れ、「あなた私の太陽よ」と字幕が入って、タイトルの意味がよくわかりました。

張 あそこまでいったら、この家族はまだまだ大丈夫だなど、皆をほっとさせてくれます。タイトルはこれしかないと思いました。

——博士課程の試験が不合格のところ、映像が一旦終わりますね。その後、合格のシーンが映ってホッとしましたよ（笑）。

張 中国で放送したときは、不合格のままです。合格以前の放送でしたので。でも、後で千葉大学が開学以来、経済学博士の第一号の証書を与えてくれたことを新聞が伝えてくれました。彼はすごく有名な人になって、本まで出しました。ですから、その後のサクセスストーリーも、たぶん皆わかっていると思います。

——大学院の指導教官佐々木陽一郎教授が退官して名誉教授となった後もずっと支え続けた。日本の教授にも、立派な人がいますね。

張 最初、佐々木先生の話す姿勢が悪くて、張さんがわざと意地悪に映したのではという話もありました（笑）。実際は、すごく良い先生で、たまたまそう写っただけです。李さんも、佐々木先生に対して「恩師、恩師」と言っていて、今でもすごく尊敬しています。

——人間は、矮小でもあるし、偉大でもある。李さんは、その偉大なるほうですね。

らず、資本家出身ということで大学入学を拒否されました。そして、当時の中国は大学入学に年齢制限があって進学できないでいて、どうしても勉強したいという夢を三十四歳で来日して実現したわけです。

李さんが、私にとって最も考えさせられた人物です。十四年間、三畳や四畳半の一間で、様々なことがありながら、自分の夢に向かって、まっすぐに進む精神力に圧倒されました。

——奥さんが十年間かけて皿洗いで貯めた四百万円を詐欺事件で失い、親子三人が別居せざるを得ない状態になっても、なお彼の背筋はピンと伸びています。一緒に観た家内と二人で涙をポロポロと……。

張 お金がなくて、一日二個のパンでしのぎ、栄養が摂れないので歩くのもフラフラ。それでも彼は、苦しい、大変だとかは一切考えない。勉強できるだけ、まだ自分は幸せだと思っただけです。

——カルシウム不足やストレスで歯が十五本抜けてしまいました。

張 その精神力は並大抵ではありません。誰だって、「自分は夢を持っている」と言うと思うのですが、彼を見ていて、そう簡単には言えないなと思いました。

中国は今ガンガン発展していて、次から次へとお金持ちが増えていますが、その中で、夢と欲望の違いをすごく考えさせられました。

張 彼も、自分のために、ではなくて、祖国のためにと言って勉強しているのです。人は、夢がそれぞれありますが、人のためとか社会のためとかで一生懸命頑張るような人は尊敬に値します。例えば、「日中友好」を言葉にすると簡単ながら、大変強い信念を持って続けないと、実現は困難だからです。

### テレビ放送等を通じて 両国の相互理解を図る

——大富の社長として現状と抱負をお聞かせいただけますか。

張 現在、大富はスカイパーフェクトTVの782と783の二チャンネルで中国語の番組を放送しています。中国本土と香港からのリアルタイムの二十四時間放送です。

今の仕事は、番組制作とは違いますが、趣旨は一緒です。今、中国と日本で、多くのことがうまくいっていないのは、お互いを知らないからで、知ることが非常に大切だと思えます。したがって、中国が今どういう国になって、どこまで進んでいるかということ、このチャンネルを通じて知っていただくのは意味のあることだと思います。それと日本にいればいるほど、祖国についての知らない部分も気がつきやすくなります。そういうことがまず第一歩かなと思います。

自分の夢をしっかりと持って、たった一回の人生をどう生きるかだろうと思います。

——奥さんが、家族の未来のためにと言って支え続けたり、お嬢さんが、父親の博士論文の面接のために日本語の発音を一所懸命教えている姿も感動的でした。

張 あれを見ていると、自分がいくら大変な状況にあっても、まだまだ余裕があると思えます。彼の家族は言うことないですね。

大倉商事の山内専務がデモテープをご覧になって、「彼は素晴らしい。アジアは心だ。彼なら戦争でも抑えられる。これをぜひ番組化してください」と言ってくださいました。

——不況に苦しむ日本人に勇気を与えてくれる秀逸の作品です。

張 今の人は結構欲深い。不景気でリストラや、給料を減らされたりして、心が荒れる人がいるようですが、李さんを見ていると、何が不満なのかと思えます。

——十三億の中国人の中でも、貴重な人じゃないですか？

張 その時代の人は、文化大革命を経験して、自分のやりたいこと、自分の夢を一度は断念しながら、再びしっかりと見つめて、歯を食いしばって追いかけていく人が意外と多くいるのです。その点、今の時代の人は文化大革命の経験をしていませんので、勉強できる環境が当たり前と考えています。

——今後、番組制作の計画はありますか。

張 二十四時間放送が二チャンネルなので非常に忙しく、番組制作まではなかなか手が回らない状況です。基本的に制作が好きなので、チャンスがあればと思っています。そのときは日本の良いところや文化も、逆に中国に少し紹介していきたいと考えています。

——ところで、留学生たちの続編を日本で放送する予定はありますか。

張 例えば、「家は心の中にある」という作品は、まだ日本で放送していません。十四年間家族と別れて、子供を世界一の大学に行かせるために、日本で働き続けている父親の物語です。私が最初に取材した時、子供は上海の高校生でした。その後、親の願いが通じて、か、アメリカのニューヨーク大学に合格して、父子が八年ぶりに東京で再会します。

親はこんなに大変なんだという親の気持ちを代弁するような内容で、中国の親はその番組を子供に観せながら、説得するらしいです。中国では、皆、この作品でいちばん泣いたそうです。それが日本で放送されるかどうかはフジテレビ次第です。

——フジテレビとしては翻訳作業が大変なんでしょうね。放送を楽しみにしています。

張 将来的に実現すればいいなと思っています。その際は、ぜひご覧ください。

（構成／TKC出版 土屋雄二郎）